

## 2015年 ふくい健康の森自然公園における鳥類相

柳町 邦光\*

The birds fauna of Fukui Kenkou no Mori Nature Park in 2015

Kunimitsu YANAGIMACHI\*

(要旨) 福井市の西部郊外に位置するふくい健康の森自然公園において、2015年の春季および秋季にスポットセンサス法により鳥類相を調査した。その結果、9目24科51種が確認され、その種構成は留鳥23種、夏鳥13種、冬鳥11種、旅鳥4種であった。この中には2016年版福井県レッドデータブックに記載されている危惧種の10種が含まれていた。調査区域で繁殖の可能性が極めて高いと思われるのは15種であった。この自然公園には年間を通じて多くの野鳥が生息していると考えられ、今後も自然環境の保全と継続的な調査が必要である。

キーワード：里山の鳥類相，スポットセンサス

### 1. はじめに

自然環境を保全するには、生物群集の構造や生物の生息環境を多角的に解析し、その結果を資料として実際に応用していくことが重要 (Meffe & Carroll, 1994) である。鳥類においても環境の違いによって生息する種数や種構成は異なっており、これらを知ることによって、種の生息のための条件を明らかにすることができる。しかし、環境が類似していても、経度・緯度および時経的变化やその他の環境条件によっても鳥類相は異なってくると考えられる。そこで、ある地点における鳥類相の調査データを蓄積し、その時系的变化を追跡することができれば、自然環境の変化を把握するための有用な知見になると期待される。

ふくい健康の森は、福井県が県民の健康増進と生きがいづくりを目的に、平成6年に福井市真栗町の里山に造成した健康づくりの総合拠点施設である。県民健康センター、けんこうスポーツセンター、温水プール、生きがい交流センター、健康スポーツ公園等の施設が整備されており、老若男女が気軽に集い楽しむことができる。また周囲にはクヌギなどの落葉広葉樹が広がる緑豊かな自然公園となっている。

本稿では、この自然公園の周囲に設置されている遊歩道の一部において、春季の繁殖期及び秋季の渡り時期に鳥類の生息調査を行ったのでその結果を報告する。

### 2. 調査地および調査方法

#### (1) 調査地の概要

ふくい健康の森は、福井市真栗町の里山 (136°08' E, 36°01' N, 標高40~130m) に位置し、前述の諸施設を含めたスポーツ公園として整備されている。その周囲の林内には幅約3mの遊歩道が整備されており、それらを含めた全体面積は約92.4haである (図1)。

本調査では、この遊歩道の一部 (約1.1km) に5地点 (A~E: 図1. 拡大図) を設定し、その概要は次のとおりである。A地点は、ヒノキとスギの植栽林が広がり、その一角にはクヌギ等の落葉高木樹が生育し、下層には常緑および落葉の低木林が広がっている。BおよびC地点は、クヌギやコナラ、ホオノキ等の落葉高木樹が広がり、下層には広葉低木林が生育している。なお、B地点はこの調査ルートのもっとも高い地点 (標高130m) である。D地点は、この遊歩道のある林縁に位置し、林側はスギやクヌギを主とした混交林で細い沢筋もある。反対側のすぐ手前には水の少ない調整池があり、その向こう側はゲートボール場と芝生広場になっている。E地点は、遊歩道のある林縁に位置し、スポーツ公園の駐車場、芝生広場、イチョウ並木、グラウンド等に面した開放部である。これら各調査地点の視野的環境を図2に示した。

#### (2) 調査期間および方法

調査地の鳥類相をより高い精度で把握するためには、調査日数は、年間20日間以上の調査が必要との報告がある (大迫ほか, 1996)。調査期間は、通年でな

\*〒918-8046 福井市運動公園1-2703

\*1-2703, Undo-koen, Fukui, Fukui. 918-8046, Japan

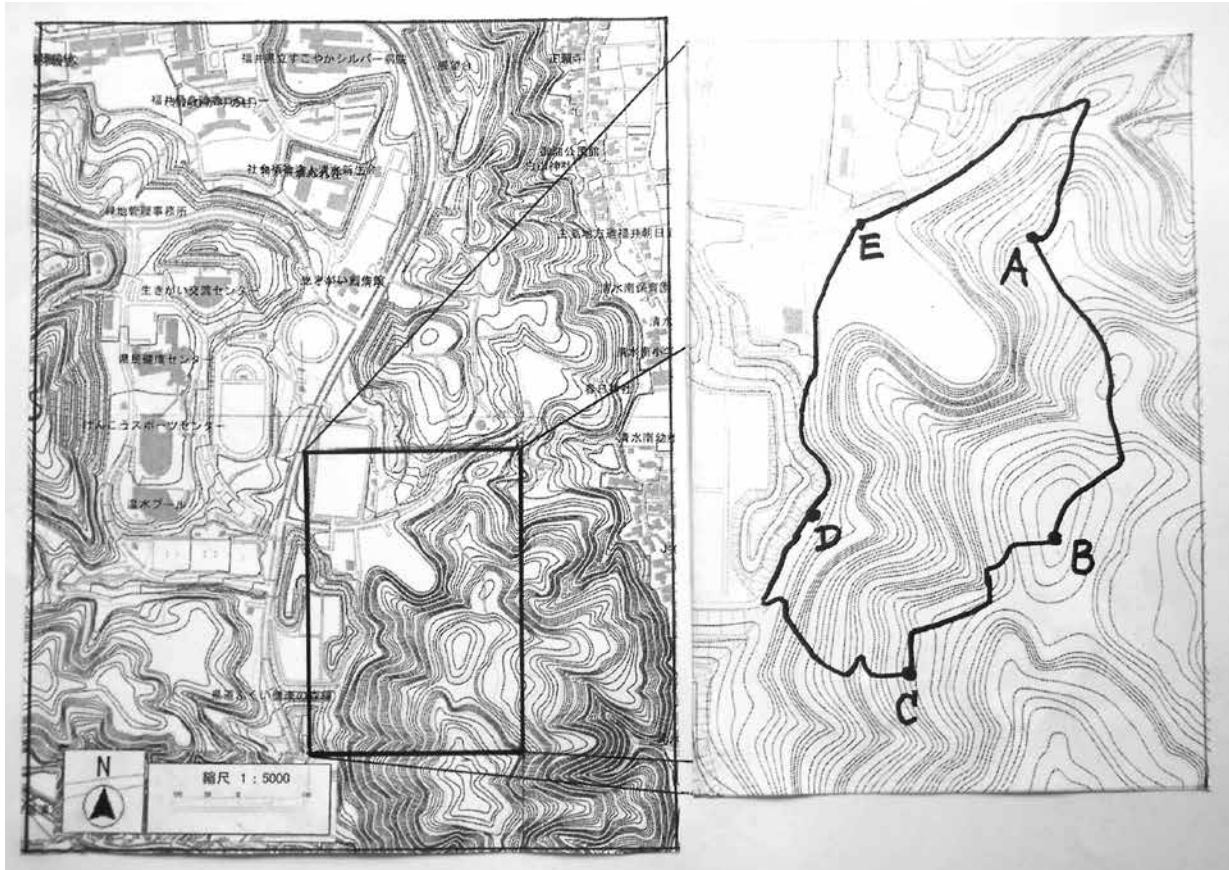


図1. ふくい健康の森 調査区域 概略図

お且つ日数を多くすることが望ましいが、天候不順や積雪、土砂崩れによる通行不能等で現実的には困難である。春季の繁殖期および秋季の渡り時期には鳥類の種数および個体数が多くなるが、夏季および積雪期には少なくなる傾向にある（例えば柳町，2011，2014）。

これらの諸点を踏まえ、本調査では春季として留鳥が繁殖行動に入る3月から夏鳥が渡来して繁殖行動がほぼ終わる6月末まで、秋季として夏鳥が南国への渡去を始める9月から冬鳥が渡来して里山に定着する12月末までを調査期間として設定した。これらの調査期間中に、天候が晴れ～曇りで風の穏やかな日を選んで、午前5時～8時の間に各地点を順次徒歩で移動した。調査日数は春季に17日、秋季に16日の延べ33日間で行った。なお、移動中に新しい種が観察された場合は前後の地点に振り分けた。

調査はスポットセンサス法を用いた。各地点の半径約50mの林内および上空域を調査区域とし、各地点につき10分間、10倍の双眼鏡および60倍のスコープを使用して、鳥類の姿および鳴き声を観察して種名と個体数を記録した。しかし、林内を群れで飛翔する個体は、その確認が不十分であったり、重複カウントの可能性もあった。また開放部では遠近感のズレ等で正確にはカウントできなかったこともあった。

### 3. 結果および考察

今回の調査では、9日24科51種（以下、出現種）の鳥類が記録された。その種名および学名を表1に示す（日本鳥学会編，2012，日本鳥類目録 改訂第7版に準拠）。

「福井の鳥とけものたち」（福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会編，1998）には福井県の鳥類目録として合計18目63科317種が掲載されており、この調査ではその16.1%が観察されたことになる。表の「出現頻度」および「渡り区分」については「福井の鳥とけものたち」に従った。ただし、アカハラ、コマドリ、コルリの3種は「福井の鳥とけものたち」によれば夏鳥であるが、この局所的な調査地では中継地として一時的に観察される旅鳥なので「旅・夏」とした。同じくコガラ、ヒガラ、ルリビタキ、ウソの4種は留鳥であるが、冬季に観察されるので「冬・留」とした。出現種51種をこれに従って分類すると、留鳥23種(45.1%)、夏鳥13種(25.5%)、冬鳥11種(21.6%)、旅鳥4種(7.8%)であった。

野鳥の繁殖期である4月～6月の期間中に、さえずりまたは幼鳥の確認など繁殖行動の可能性が極めて高いと考えられる15種については表1中の種名の頭に「\*」を付した。これら出現種のうちサシバ、アカショウビン、コサメビタキの3種は県域準絶滅危惧種に、コチ



A地点



D地点



B地点



E地点

図2. 各調査地点の自然環境



C地点

ドリ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ヤブサメの4種は要注目種に、ハイタカ、コマドリ、ルリビタキの3種は絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている（福井県安全環境部自然環境課編，2016）。

各調査日ごとに、出現種の生息密度（その種の各地点の合計個体数を調査区域面積（5地点で3.93ha）で除した値）を表1に示した。各地点における優占度（その種の個体数を全個体数で除した値）を、また出現種の出現率（各地点でその種が出現した日数を全調査日数（33日）で除した値）を表2の右端に示した。

表1の生息密度の下段には、各調査日における調査区域全体での生息密度の合計値と出現種数を示し、これらの変化を春季と秋季に分けて図3に示した。生息密度の合計値が一つの目安として20.00を超えた日数は、春季では11日であったが秋季では8日と少なかった。春季は繁殖期の活発な囀りや夏鳥の渡り途中での観察が多かったことによるものと思われるが、秋季は静かな地鳴きや渡りの季節であって、目視での観察に依存するところが多く、調査時期によって観察回数に変動があるものと思われる。種数については20種以上確認された日は、春季は6日と多かったが秋季は1日だけであった。筆者は、秋季にこの調査区域内で南へ渡るエゾビタキ *Muscicapa griseisticta* を確認したことがあり、これもこの季節に人知れず渡っていく典型的な一面である。

秋季の渡り時期として特記すべきことは、ヒヨドリの渡り行動による大群が見られ、その合計値が10月8日に157.51および10月14日に145.06と突出した日があった。ヒヨドリの渡りは全国的に観察されているが、この調査区域でも里山を中継地として移動していることが確認された。

表1. 出現鳥種および生息密度

目名 Order	科名 Family	種名 Species	学名 Scientific name	出現 頻度	渡り 区分	日別密度													
						3/4	3/13	3/17	3/26	4/2	4/9	4/17	4/22	4/28	5/7	5/14			
カモ	カモ	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	普	留														
ハト	ハト	* キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	普	留											0.25	0.25		
ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	普	留											0.25			
カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	普	夏								0.25						
チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	普	夏											0.25	0.25		
タカ	タカ	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	少	留											0.25			
		サシバ	<i>Butastur indicus</i>	普	夏														
ブッポウソウ	カワセミ	アカシヨウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	少	夏														
キツツキ	キツツキ	* コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	普	留	1.27	1.02	0.25	0.25	1.27	1.27	0.51	0.25	0.25	0.76	0.25			
		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	少	留	0.51		0.25						0.25					
		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	普	留											0.25	0.25	0.25	
スズメ	サンショウクイ	* サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	少	夏											0.51	1.02	0.51	
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	少	夏														
カラス	カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	普	留			1.02	0.76			0.51	0.76	0.51	1.02	1.02			
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	普	留	0.25			1.27	0.51	0.25	0.51			0.25	0.25	0.51	0.51	
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	普	留			0.25											
シジュウカラ	シジュウカラ	コガラ	<i>Parus montanus</i>	普	冬・留				0.25										
		* ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	普	留	1.78	1.27	1.02	1.78	1.78	1.78	0.76	2.29	0.76	2.29	0.51			
		ヒガラ	<i>Parus ater</i>	普	冬・留				0.76			0.51							
		* シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	普	留	2.54	1.78	0.51	2.54	3.05	2.29	1.78	2.04	2.04	1.78	1.27			
ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	普	夏							1.02	1.02		0.76					
ヒヨドリ	* ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	普	留	1.02	0.76	1.78	1.78	4.58	3.05	4.07	4.58	6.87	6.11	4.58				
ウグイス	ウグイス	* ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	普	留						0.51	0.51	0.76	0.76	0.76	1.02			
		* ヤブサメ	<i>Cettia squameiceps</i>	普	夏							0.25	0.25	0.25					
エナガ	* エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	普	留	2.54	1.27	3.05		1.78	0.51	2.04	0.76		0.76					
ムシクイ	ムシクイ	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus tenellipes</i>	少	旅									0.25					
		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus occipitalis</i>	普	夏													0.25	
メジロ	* メジロ	<i>Zosterops japonica</i>	普	留							1.27	2.80	3.05	2.29	4.07	1.53	1.78		
ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	普	留				0.25	0.25										
ヒタキ	ヒタキ	* クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	普	夏											0.25	0.25	0.25	0.25
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	普	冬									0.51		0.51			
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	少	旅・夏														0.25
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	普	冬														
		コマドリ	<i>Erithacus akahige</i>	少	旅・夏										0.76				
		コルリ	<i>Erithacus cyane</i>	普	旅・夏														0.76
		ルリビタキ	<i>Erithacus cyanurus</i>	普	冬・留				0.51	0.25									
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	普	冬								0.25						
		コサメビタキ	<i>Muscicapa latirostris</i>	少	夏														
		* キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	普	夏									0.25	0.76	1.53	1.02	0.76	
オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	普	夏										0.51			0.51			
スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	普	留				0.51	1.02	1.53		1.02	1.27		0.51				
セキレイ	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	普	留													0.51	
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	普	留								0.25						
アトリ	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	普	冬														
		* カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	普	留	5.09	1.02	4.33	4.33	5.34	2.29	4.33	5.09	3.31	3.05	2.04			
		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	普	冬								1.02						
		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	普	冬								0.25						
		ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	普	冬・留				1.02			0.25	1.27	0.25					
		* イカル	<i>Eophona personata</i>	普	留									0.25	0.76	2.29	1.27		
ホオジロ	ホオジロ	* ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	普	留	0.51	0.51	0.51		0.51	0.51		0.51	0.76	1.27	1.53			
		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	普	冬									0.25	0.51	0.76			
9目	24科	51種				日別密度合計													
						15.52	9.16	17.30	11.70	21.88	20.36	22.39	24.94	26.72	25.19	18.58			
						種数													
						9	10	17	8	12	18	16	23	20	18	20			

2015年 ふくい健康の森自然公園における鳥類相

																			種別密度	順位					
5/22	5/27	6/5	6/11	6/18	6/26	9/2	9/8	9/17	9/25	9/30	10/8	10/14	10/21	10/28	11/1	11/7	11/19	11/26	12/7	12/15	12/22	合計			
		0.25			0.51																		0.76		
0.25		0.51	0.25	0.25	0.25			0.76		0.25	0.76			0.51									4.33		
																							0.25		
																							0.25		
0.25	0.00		0.76	0.51	0.25																		2.29		
																							0.25		
									0.25														0.25		
	0.25		0.25	0.25																			0.76		
0.76	1.27	0.51	1.02	2.54	0.51	0.25	1.02	0.76	0.25	1.02	0.76	0.76	1.27	0.25	0.25	2.54	1.27	1.02	1.27	1.78	0.25	28.75	6		
														0.25									1.27		
		0.25								1.02	0.25			0.25					0.25				2.80		
	0.51		0.51	0.25	0.51	0.25																	4.07		
		0.51		0.25																			0.76		
							0.51	0.51	1.02	1.53	1.02	3.05	2.04	2.29	1.53	2.29	2.54		0.25	0.51		24.68	8		
0.76	1.27	0.51	1.53	0.76	0.76	0.25			0.51	0.76	1.53	0.51	0.76	0.51	1.53	0.76	0.51	1.53	1.02	0.51	0.76	21.37	9		
																			0.76				1.02		
																							0.25		
0.51	0.51	1.78	1.27	1.02	0.76	1.27	1.27	2.04	2.04	2.54	3.82	3.05	1.78	2.29	2.80	4.07	1.78	1.27	2.04	1.53	1.53	57.00	3		
														0.51	1.02			1.78		0.51		5.09			
2.29	2.29	3.05	1.02	0.51	2.04	1.02	1.02	0.51	0.51	0.76	0.51	1.53	0.51	0.25	2.04	2.04	0.25	1.53	3.31	2.29	2.29	53.18	4		
		0.51	0.76	0.76																			4.83		
5.60	5.60	3.31	5.85	4.58	4.83	7.38	5.34	4.07	6.36	4.83	145.29	134.61	8.14	2.80	6.36	1.53	2.54	2.29	4.83	5.60	9.41	420.36	1		
0.25	0.51	1.27	1.02		0.51										0.25	2.04		0.76	0.25	0.76	1.02	12.98			
0.25					0.25																		1.27		
1.53			0.76												0.76	1.53		0.76	2.04			20.10	10		
																							0.25		
0.51																							0.76		
1.27	1.78	0.76		1.78	0.76		3.05	1.27	1.53	2.04	0.51	0.76	0.76	1.27	2.04	4.07	0.76		0.51			41.73	5		
																				1.02	0.76	1.02	3.31		
0.25	0.25				0.25																		1.78		
														0.25	0.25	0.51	0.51	0.25	0.51	0.25	0.51		4.07		
																							0.25		
																0.51		0.76	0.25				1.53		
																							0.76		
																0.51	0.76	0.25	1.53	1.53	2.29	1.02	8.65		
																							0.25		
		0.25																					0.25		
1.27	1.27	1.53	0.51	1.02	0.76																		10.69		
0.25																							1.27		
2.29	3.82	2.04	1.53	1.78	1.78					0.76		1.53	2.29		2.29	1.78							27.74	7	
				0.25			0.25			0.25	0.25		0.25		0.25	0.25				0.25	0.25		2.80		
0.25	0.51	0.25	0.51	0.25	0.25	0.25	0.51	0.51		1.02	0.51	1.27	0.51	0.76	0.25	0.25	0.51	0.25	0.25		0.51	9.67			
													0.51	0.51									1.02		
1.27	3.31	3.05	2.54	1.78	1.78	0.25	0.51	1.02					1.27	3.31	3.05	4.07	2.54	4.33	1.53	5.34	1.78	82.95	2		
														0.25									1.02		
																							0.51		
																0.25					0.25		3.31		
1.02	0.25	0.51	0.51	1.78	0.76					0.25					0.76	1.53							11.96		
0.76	0.51	0.76	1.53	0.51	0.76								2.04	2.80	1.27	1.53			0.76				19.85		
																								2.29	
21.63	24.17	20.87	21.12	21.63	19.08	11.70	13.49	11.96	12.72	16.28	157.51	146.06	22.65	18.32	28.24	33.33	10.69	17.81	21.12	24.17	20.10	908.40			
20	17	17	17	20	20	10	9	9	7	12	12	9	14	17	18	20	10	13	18	13	12	51			

表2. 地点別優占度(%)と出現率(%)

地 点	A	B	C	D	E	全体	順位	出現率	順位
カルガモ				0.30		0.08		6.1	
キジバト	0.75	0.48	0.46	0.40	0.38	0.48		33.3	
アオサギ				0.10		0.03		3.0	
ツツドリ				0.10		0.03		3.0	
コチドリ				0.90		0.25		21.2	
ハイタカ			0.23			0.03		3.0	
サシバ	0.15					0.03		3.0	
アカショウビン	0.15			0.20		0.08		9.1	
コゲラ	0.75	11.72	6.90	1.70	1.14	3.17	6	100.0	1
アカゲラ	0.15	0.24	0.46	0.10		0.14		12.1	
アオゲラ	0.60		0.69	0.10	0.28	0.31		24.2	
サンショウクイ	1.05	0.72	0.46	0.10	0.28	0.45		24.2	
サンコウチョウ			0.69			0.08		6.1	
カケス	4.82	4.55	4.14	1.10	1.61	2.72	8	60.6	9
ハシボソガラス	2.56	1.44	2.30	1.80	3.13	2.35	10	87.9	5
ハシブトガラス	0.30	0.48				0.11		6.1	
コガラ	0.15					0.03		3.0	
ヤマガラ	7.23	11.24	13.10	4.20	2.85	6.27	3	100.0	1
ヒガラ	1.51	0.48		0.80		0.56		18.2	
シジュウカラ	5.12	11.96	12.64	4.00	2.85	5.85	4	100.0	1
ツバメ	1.51	0.96			0.47	0.53		18.2	
ヒヨドリ	37.65	20.33	23.45	59.56	58.82	46.27	1	100.0	1
ウグイス	1.81	1.20	2.30	1.20	1.14	1.43		51.5	
ヤブサメ	0.45			0.10	0.09	0.14		15.2	
エナガ	2.11	8.61	4.83	0.80		2.21		42.4	
エゾムシクイ	0.15					0.03		3.0	
センダイムシクイ		0.48	0.23			0.08		6.1	
メジロ	6.78	5.50	7.82	2.80	3.23	4.59	5	72.7	7
ミソサザイ	0.45		0.23	0.80	0.09	0.36		15.2	
クロツグミ		1.20	0.46			0.20		21.2	
シロハラ	0.15	2.39	0.92	0.10		0.45		30.3	
アカハラ			0.23			0.03		3.0	
ツグミ	0.45	0.24			0.19	0.17		9.1	
コマドリ				0.30		0.08		3.0	
コルリ	0.30				0.09	0.08		3.0	
ルリビタキ	1.36	1.91	1.38	0.60	0.47	0.95		27.3	
ジョウビタキ					0.09	0.03		3.0	
コサメビタキ			0.23			0.03		3.0	
キビタキ	1.66	3.83	2.30	0.30	0.19	1.18		33.3	
オオルリ		0.72	0.23	0.10		0.14		9.1	
スズメ	1.05			2.30	7.50	3.05	7	51.5	
キセキレイ				0.80	0.28	0.31		30.3	
セグロセキレイ				3.10	0.66	1.06		63.6	8
アトリ	0.30		0.46			0.11		6.1	
カワラヒワ	14.91	4.55	8.51	7.61	9.01	9.13	2	87.9	5
マヒワ			0.92			0.11		3.0	
ベニマシコ	0.15				0.09	0.06		6.1	
ウソ		0.72	1.38	0.20	0.19	0.36		18.2	
イカル	1.05	3.83	1.84	0.80	0.76	1.32		39.4	
ホオジロ	2.26			2.00	4.08	2.18	9	60.6	9
アオジ	0.15	0.24	0.23	0.60		0.25		12.1	
個体数	664	418	435	999	1054	3570			
種数	34	26	30	34	27	51			

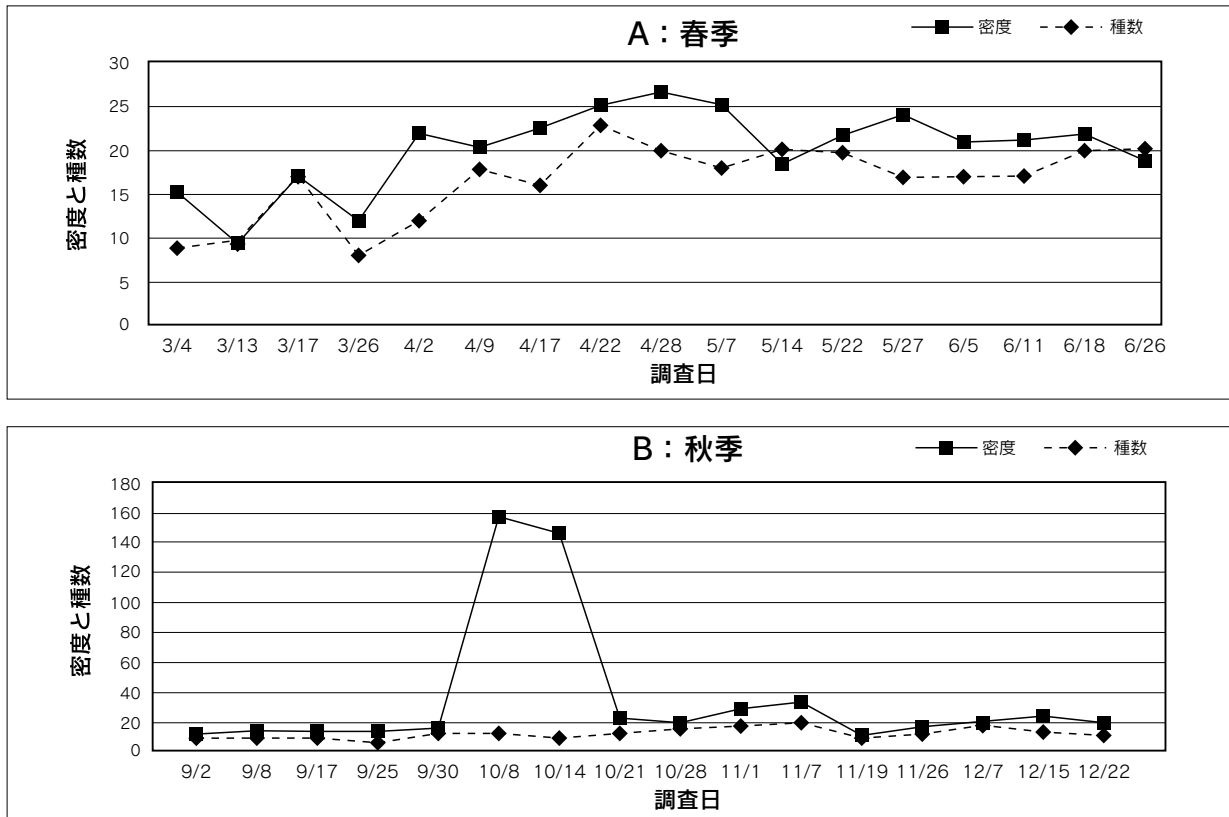


図3. 生息密度と種数の変化 (A: 春季, B: 秋季)

表1の右端には、調査期間中における出現鳥種ごとの生息密度の合計値を示した。その上位10種はヒヨドリ、カワラヒワ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、コゲラ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、エナガの順で、全てが留鳥であった。

カワラヒワは生息密度が82.95と高く、優占度もヒヨドリに次ぐ高さであったが、その多くは樹冠や開放部での群れ飛翔が観察された。しかし秋季には未確認の日もあり出現率は100%にならなかった。

ヤマガラ、シジュウカラ、メジロは樹冠や樹間で数羽から十数羽の群れ行動で見られたことが多く、生息密度もカワラヒワに次いで高いこと、および各調査地点での優占度も高かったことから、里山の代表的な生息種であると言える。コゲラは、単独行動が多いためその生息密度は低かったが、独特の鳴き声からその生息が確認されることで出現率は100%であった。このことからカラ類に次いで里山での存在感が大きい種と言える。

スズメはグラウンドや芝生広場、公衆便所など人的関係の深い場所での確認が多く、生息密度では上位10種に入っていたが出現率では上位10種に入らなかった。

カケスとハシボソガラスは、その鳴き声から明瞭な存在感があり、目視の調査範囲を越えていた可能性も

あり得ることや、ハシボソガラスは開放部での飛翔確認が多かったことから、重複カウントの可能性も否定できない。

エナガは生息密度で上位10種に入ったが、優占度と出現率では入らなかった。本種は群れ行動で確認されることが多いため、記録個体数は多くなるものの出現率はそれほど高くなかった。

夏鳥についてはキビタキ、ツバメ、サンショウクイが生息密度の上位3種であった。キビタキは繁殖期でもあり、営巣場所周辺での囀りが多く観察が容易だったのに対し、ツバメやサンショウクイは上空を鳴きながら飛翔していることが多く、重複カウントの可能性はあることは歪めない。

冬鳥についてはルリビタキ、ヒガラ、シロハラが上位3種であったが、ルリビタキは冬季にも小さいながらも縄張りを持つことから、その地鳴き等で確認し易いこと、またヒガラは針葉樹の環境を好むことから、その生息環境によるところが大きいと考えられる。

筆者はこの自然公園内において、積雪期にはオオマシコ *Carpodacus roseus* とベニマシコ *Uragus sibiricus* を観察したこともあり、年間を通じての調査を行えば、更に出現種が増える可能性もあり得ると思われる。

優占度ではヒヨドリ、カワラヒワ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、コゲラ、スズメ、カケス、ホオジ

ロ、ハシボソガラスが上位10種であったが、どの地点でもヒヨドリがずば抜けてトップであった。この中でホオジロは生息密度の上位10種に入らなかったが、逆にエナガは上位10種に入らなかったが、生息密度で上位10種に入っていた。

出現率では、ヒヨドリ、ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラの4種が100%であり、次いでカワラヒワ、ハシボソガラス、メジロ、セグロセキレイ、カケス、ホオジロが上位10種であった。これらのうちセグロセキレイは、調整池が近くにあるD地点と芝生広場近くのE地点で確認が多かったことによるが、生息密度の上位10種には入らなかった。またホオジロも明るい林縁部や開放部での確認が多かった。

今後の動向を注目すべき種としてウグイスが挙げられる。ウグイスは留鳥として林内の下敷を主な生息地としており、今回の調査区域でも生息密度は上位10種には入らなかったものの、12位と普通に確認されている。しかし、近年はシカの生息域の拡大によって下敷の植生が食い荒らされ、ウグイスの減少が顕在化してきている（日野，2004）。県内の嶺南地域でもその傾向がみられ、近い将来において嶺北地域でも下敷の植生被害が危惧されることから、ウグイスの生息状況に注目していく必要がある。

#### 4. おわりに

ふくい健康の森自然公園は、福井市近郊の里山であり生活の場と隣り合わせの地域でもあることから、自然とのふれあいを大切にしながら健康づくりの場としても重要な地域である。今後も野生生物を保護するために、定期的な調査を行うことにより、自然環境の保全に向けて努力していくことが重要である。

#### 引用文献

- 福井県安全環境部自然環境課編，2016，改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物。福井県，536p。
- 福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会編，1998，福井の鳥とけものたち，福井県，222p。
- 日野輝明，2004，シカが鳥のすみかを左右する？森の鳥を楽しむ101のヒント。日本林業技術協会，164-165。
- Meffe,G.K. and Carroll,C.R., 1994, Principles of conservation biology. Sinauer Associates, 600p.
- 日本野鳥の会編，2012，日本鳥類目録 改訂第7版，日本鳥学会，438p。
- 大迫義人・納村力・多田雅充，1996，福井県の丘陵地における鳥類相の効率的な調査日数と調査時期，Ciconia, (5), 39-54.
- 高野伸二，2015，フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版，(財)日本野鳥の会，392p。
- 柳町邦光，2011，2010年の羽坂林道周辺における鳥類相。福井市自然史博物館研究報告，(58)，29-36。

柳町邦光，2014，2013年の足羽山自然公園における鳥類相。福井市自然史博物館研究報告，(61)，29-41。

#### Abstract

Surveys of the birds fauna and its annual change in Fukui Kenkou no Mori Nature Park, where is a country forest in the western suburbs of Fukui City which were conducted in spring and autumn in 2015 by using the spot-census method. A total of 51 species of 24 families belong to 9 orders were recorded in this study area. They were constituted by 23 resident species, 13 summer species, 11 winter species and 4 migratory species. It includes 10 endangered species that are registered in the Red-Data-Book of Fukui Prefecture in 2016. In addition, 15 species among them seemed to be breeding with high possibility in this area.

Many birds inhabit in this area throughout the year, therefore, it is very important to preserve this kind of nature environment and keep surveying the birds fauna in this area.

#### Key Words

Birds fauna of country forest , Spot-census method